

考へもの

三河 近藤とき子

妾の末弟が或日、叔母様の處へ要用があつて行きました、とう／＼日がくれました。妾の弟は男ながら、夜道が甚だ恐いから、(虫の名二つ出づ)あてゝぢらん。

謎々く

一、人力車夫とかけて、

一、めくらの障子張とかけて、

一、めくらの芝居見物とかけて、

ないしょといふこと

ふみ子

人の親として其子のよかれかしと望まぬものが何處にございませうか、處が實際はなか／＼そらばかりはまるりませんで、自分の修養のたらぬため、また、不注意などのために、全く、知らす

／＼天真爛漫な子供を、わるい方に導いて居ることがあります。

私はこういう一人の女の兒を知つ居ります。



家 庭



その女兒はまことに、かくしたてをいたします。

人の見ぬところを撰んで遊ぼうといたします。

やきます。つげ口をします、何となく卑劣な様でしかも何ともいふにはれぬ不高尚な處がございまして、どうしても無邪氣な子供の所爲とは思はれません。

一体、子供が表裏の行をいたしますのは愛情少くない或はない嚴格な取扱を受けるのに原因するものが普通でございます。子供をしつけますのに、時々、随分厳格にいたしましても、其兒に對し

て十分の愛情を持つて居り、また、其愛情でしきをいたしましたならば、子供は決して怨むこと

もありません。また、心のはなれることもありません。それは、つまり、こちらの心と子供の心とか融和して居るからであります。けれども愛情の方が欠けますと、子供は無暗に、こはがつて、目の前では左程でもあります。せんが、一度、其目をはなれると、すぐに、かげでわるい事をいたします。かの他家にいつて却て、わるい事をいたしました。また、自家でもことはい人の留守の間に、わ



しかし、前に申しました女の兒は別に誰からも今申した様な取扱を受けて居りません。つまり其原因は取扱方から來たのではございません。全く、知らず家庭の空氣に化せられたのでござります。

其家庭の人々は皆其の兒を愛して居ります。ですから一目見ますと、大へん幸福な様でございますが家人の人々がすべて、此の兒に對して一致して居らぬといふことは、この兒に取つて大なる不幸でございます。即ち母は父の禁して置きました玩具をひそかに買つて與へまして「これはないしょですよ」といつて聞かせます。また祖母は子供を愛するあまりに其子のあやめちを掩ひかくしてやります。從て兒はないしょといふうを見たり聞いたり、また私語を聞いたりする場合が澤山あります。

ます。其度毎に子供はこれによつて、何を學ぶでござりますか。まことに氣の毒なのは軟弱な且つ白紙の様な兒であります。知らぬ間に、いろいろわるい方に導びかれます。

この兒の家人人は決してこの兒をかげひなたのある兒にしようとも、望んでは居りますまい。そうでござりますのに、この兒がかげひなたをする様になつたのは、どういふわけでござりますか。全く家人から悪い影響をうけたのでござります。ほんとに、ないしょといふことは大に氣をつけなければならぬことゝをもひす。

傳染病

醫學士 長瀬復三郎